



大学コンソーシアム学都ひろさき
令和2年度
活動報告集



ごあいさつ

弘前は6 高等教育機関をはじめ、多くの高等学校などが存在する文字通りの学都ですが、単に学生が多いだけでなく、弘前は「学都」と呼ばれるに相応しい風格のある街だと、他の街との比較ではなく、そう思います。加えて、学生は自転車があれば何処にでも行くことができ、「大学コンソーシアム学都ひろさき」の活動も弘前ならではの利点を活用して一層活発になるものと期待しています。

弘前の利点はそれにとどまるものではありません。弘前市からはコンソーシアムの活動に予算面や活動面での支援をいただいております、また、市民の皆さんの多大な協力をいただいております。なにより、大学に対する市民の期待にも大きなものがあると思いますので、大学としても地域との連携による教育研究の在り方を追究することに大きな価値を置いています。

いつも申し上げていることですが、特に大学における教育研究は多様でなければなりません。一大学の努力だけではなく、コンソーシアムを主体として地域の自治体や企業、団体の皆さんと連携して活動できることは、「学都ひろさき」に拠点を置く私たち6 高等教育機関にとって大きなアドヴァンテージです。そのことを最大限に活用して、未来社会を担う人材の育成に邁進していければと願っています。

「大学コンソーシアム学都ひろさき」の活動を多くの方々に知っていただき、引き続きご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

令和3年3月

大学コンソーシアム学都ひろさき会長

国立大学法人弘前大学

学長 福田眞作



目次

ごあいさつ

令和2年度活動報告

I. 教育事業

- 共通授業 1

II. 連携推進事業

- 6大学合同シンポジウム 17
- 各大学公開講座等助成事業
 - ・ 青森県産食材を使った料理作品展 23
 - ・ 放送大学青森学習センター公開講演会
「高校生の夢を津軽から世界へ ～“こけす”の製作と普及を通して～」 24
 - ・ 公開講座「岩木山の恵みを楽しもう～あなたの知らない山の世界」 25
 - ・ 弘前大学社会科学部国際公開講座2020「日本を知り、世界を知る」 26
 - ・ 青森の健康2020「食生活によるコロナウィルス感染予防」 27
 - ・ ふれあい塾 28
 - ・ 絵本のごちそうクッキングー親子時間を楽しもうー 30

III. 学生交流事業

- ひろさき移動キャンパス 33
- 学生委員会「いしてまい」活動 38
- コロナパンフレット 39

- 「令和2年度大学コンソーシアム学都ひろさき活性化支援事業費補助金」対象事業
- 大学コンソーシアム学都ひろさき自主財源実施事業

令和2年度活動報告

I. 教育事業

共通授業

1. 共通授業とは

「地域の課題を理解し、地域の発展を考える」をテーマに、地域の課題を具体的に理解し、その解決について自ら考えることが出来る人材を育成することを目的に、オムニバス形式で開講している。本講義は平成25年度から開講しており今年で8年目となる。

また、平成28年度から、本コンソーシアム加盟大学の弘前学院大学、東北女子大学、弘前大学の3大学で、本授業を単位として認定している。

なお、今年度は新型コロナウイルス感染状況を鑑みオンラインにて実施した。

2. 概要

○テーマ

地域の課題を理解し、地域の発展を考える。

○目的

地域の課題を具体的に理解し、その課題解決について自ら考えることが出来る人材を育成する。

○内容

1日1課題（テーマ）について、担当教員、弘前市職員、民間企業社員から、地域の様々な課題についてオムニバス形式で授業を実施し、その解決策についてのグループディスカッション、グループワーク、フィールドワーク等を行い、発表する。

○対象・定員

弘前学院大学、東北女子大学、弘前大学の学生55名

○日時・授業数

令和2年8月19日（水）、20日（木）、21日（金）

9時30分～18時20分

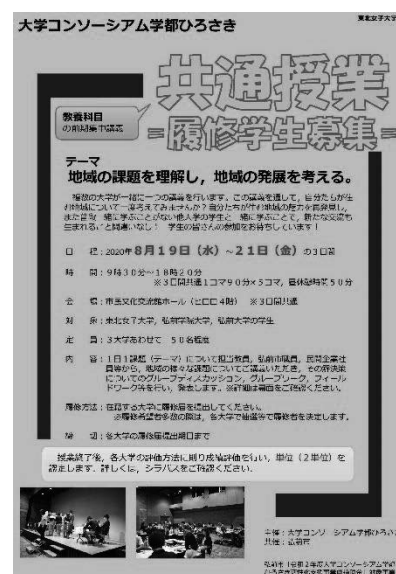
15コマ（1コマ90分×5コマ×3日間）

○実施方法

オンライン（ZOOM）

3. 受講者数

	20日	21日	22日
弘前学院大学	5名	5名	5名
東北女子大学	14名	14名	14名
弘前大学	26名	26名	25名
聴講生（一般）	0名	0名	0名
計	45名	45名	44名



令和2年度の募集ポスター

4. 各日の授業

(1) 8月19日(水)

テーマ	持続可能な街づくり
授業内容	①持続可能な街づくりとは？ ②持続可能な開発（SDGs）と弘前市の街づくり ③地域の課題をSDGsの観点から見てみよう ④SDGsの視点を生かした取り組みを考えてみよう ⑤地域活性化のために何が必要か
担当教員	東北女子大学 家政学部 准教授 小野 昇平
自治体講師	弘前市企画部企画課 主査 工藤 翔 氏
協力教員	-
授業の流れ	<p>【1コマ目】 9時30分～11時00分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日の授業説明 ・幸せに暮らせる街の条件をグループワーク→発表 ・SDGsについて知ろう。（講義：20分）
	<p>【2コマ目】 11時10分～12時40分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsと地方創生について（講義） ・弘前市について知ろう：弘前市の特徴と総合計画の概要（弘前市工藤氏による講義） ・SDGsと地域の課題を照らし合わせてみよう（個人ワーク&グループワーク）
	<p>【3コマ目】 13時30分～15時00分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2コマ目のグループワークの発表 ・SDGsのローカライズについて（講義） ・SDGsの視点から必要な作戦を考えよう（個人ワーク） ・SDGsの視点から必要な作戦を考えよう（グループワーク）
	<p>【4コマ目】 15時10分～16時40分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの視点から作戦を考えよう（グループワークまとめ作業） ・発表 ・講評
	<p>【5コマ目】 16時50分～18時20分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だれをどのように巻き込むか（個人ワーク） ・だれをどのように巻き込むか（グループワーク） ・発表 ・講評＝総括

(2) 8月20日(木)

テーマ	若者の政治参加
概要	①新しいアイデアのつくり方 ②若者の政治参加の現状 ③グループワーク（無関心の原因） ④グループワーク（関心を高めるには） ⑤グループ発表
担当教員	弘前大学 教育学部 講師 蒔田 純
自治体講師	弘前市選挙管理委員会事務局 総括主幹 工藤 善仁 氏
協力教員	-
授業の流れ	<p>【1コマ目】 9時30分～11時00分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師自己紹介、本日の授業説明 ・ゲスト講師（弘前市選管工藤氏）より弘前市の選挙・投票率等の現状について説明
	<p>【2コマ目】 11時10分～12時40分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師より、新しいアイデアのつくり方について説明 ・新しいアイデアについてのクイズ ・既存の投票率向上施策について説明
	<p>【3コマ目】 13時30分～15時00分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク ・「去年の参院選に行ったか」「県議選・知事選に行ったか」について各グループで検討 ・「なぜ若者は投票に行かないのか」について各グループで検討 ・グループごとに発表
	<p>【4コマ目】 15時10分～16時40分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どうすれば若者は投票に行くようになるか」について各グループで検討 ・若者の投票率向上のための重点施策2つを各グループで決定
	<p>【5コマ目】 16時50分～18時20分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに重点施策を発表、質疑 ・出された重点施策に対して、全員による投票 ・結果発表、上位2つを「若者からの投票率向上施策」として、弘前市選挙管理委員会に提案

(3) 8月21日(金)

テーマ	持続可能な若者の健康づくり
概要	<ul style="list-style-type: none"> ①現在の若者の健康事情、健康の実態を考える ②若者のメンタルヘルス ③何が健康を作り出すのかを考える① ④何が健康を作り出すのかを考える② ⑤持続可能な若者の健康づくり
担当教員	弘前学院大学 看護学部 教授 大瀬 富士子
自治体講師	弘前市健康こども部健康増進課 課長補佐 佐藤 美加 氏
協力教員等	弘前学院大学看護学部 講師 齊藤史恵 弘前大学保健管理センター 講師 高橋 恵子
授業の流れ	<p>【1コマ目】 9時30分～11時00分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日の授業説明 ・個人ワーク「現状—チェックリスト記入—」 ・講義「プレコンセプションケア」
	<p>【2コマ目】 11時10分～12時40分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義「今から作る20年後の健康」：弘前市佐藤氏 ・講義「若者のメンタルヘルス」：弘前大学高橋先生
	<p>【3コマ目】 13時30分～15時15分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人ワーク「私が考える若者の健康作りとは」 ・アイスブレイク ・グループワーク 「私が考える若者の健康作りとは」
	<p>【4コマ目】 15時25分～16時40分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人ワーク 「持続可能な若者の健康作りを啓発するには」 ・グループワーク 「持続可能な若者の健康作りを啓発するには」
	<p>【5コマ目】 16時50分～18時20分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークの発表 ・講評

(4) 全体をとおしての様子

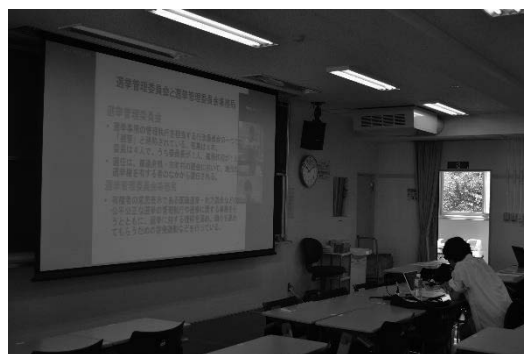
○オンライン講義を受ける学生



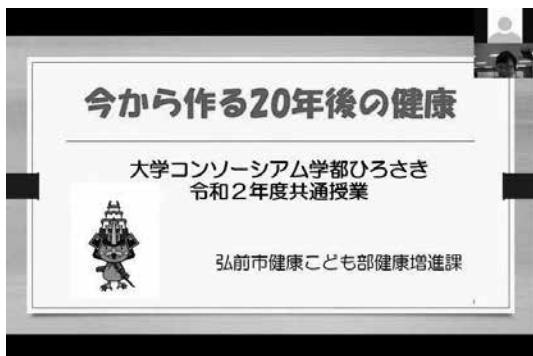
○1日目の様子



○2日目の様子



○3日目の様子

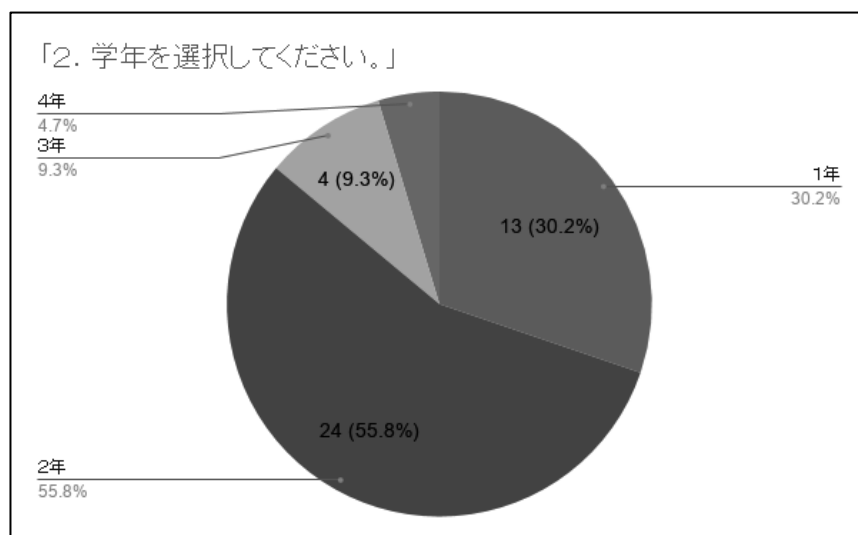
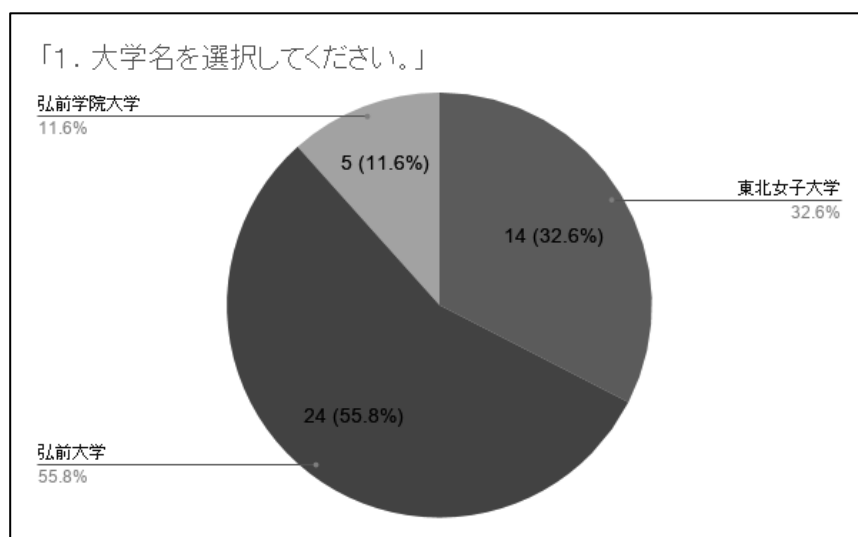


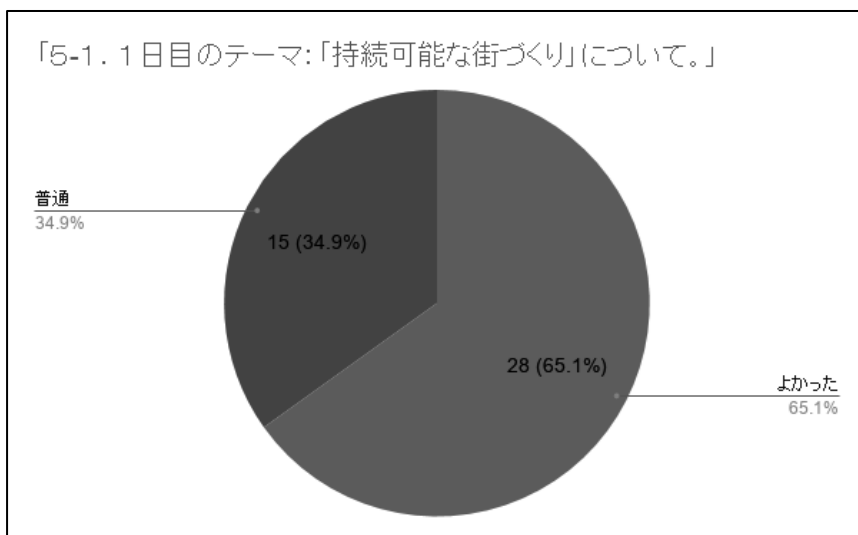
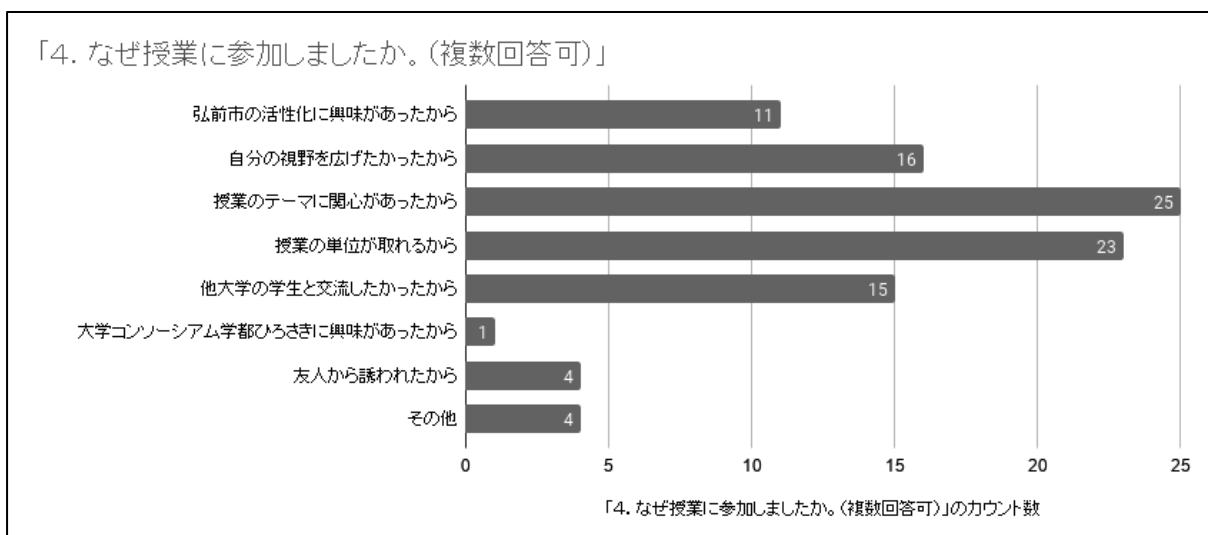
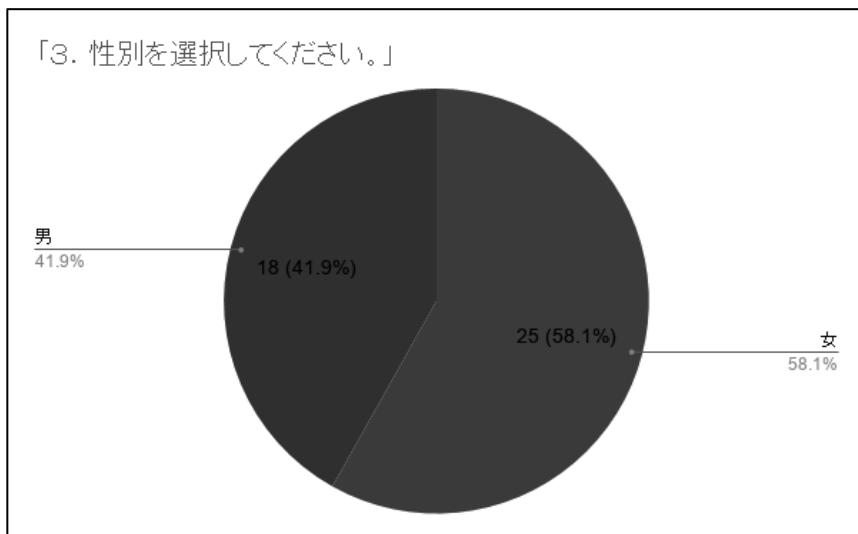
5. 単位認定者

- 弘前学院大学： 5名
- 東北女子大学： 14名
- 弘前大学： 25名

6. 授業アンケート

○アンケート実施日 8月21(金)	○回答者数/出席者数 43名/45名	○回答率 95.55%
----------------------	-----------------------	----------------

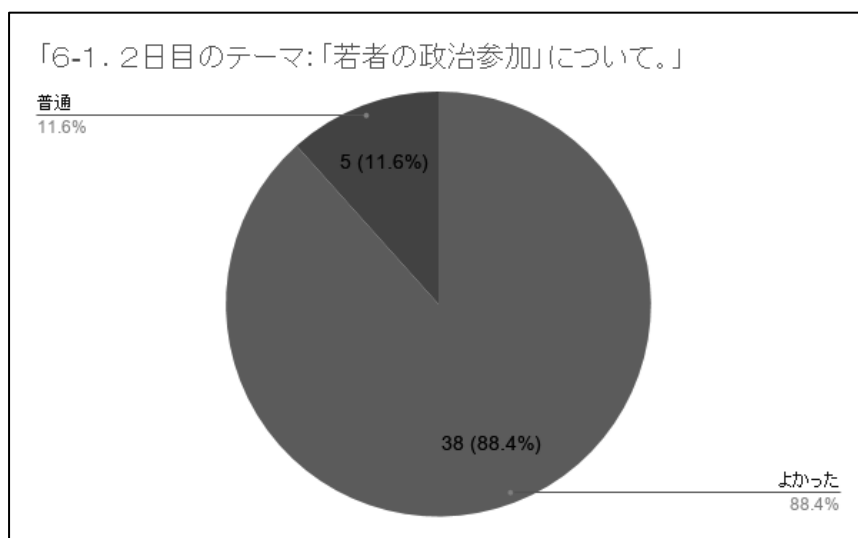




○理由 (一部抜粋)

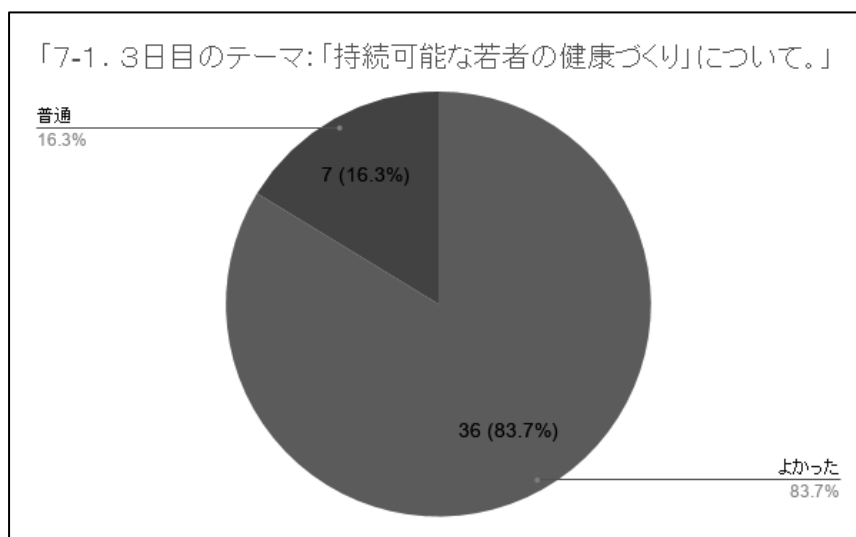
- ・グループワークが多く、初めてのことでとても新鮮だった。自分は弘前市在住ではないが、この授業を通して地域のためにできることを自分の地域にも生かしたい。

- ・弘前市が抱えている課題について、対策方法を考えるのは、自分の創造力を成長させることができたと同時に、周りの人に意見から新たな発想を得ることができた。地元のSDGsも調べ、どんな課題を抱えているのか調べて、自分にできることはないか考えてみたいと思った。
- ・今まで、SDGsという言葉はニュースや授業で聞いていたのかもしれないが、受験のため、自分には関わりのないことだなどと受け止めていたかもしれないと思った。自分が暮らしている街のことについて、もっと関心を持たなければならないと感じた1日だった。
- ・持続可能と言っても様々な課題と、その解決にたくさんの関わりが必要だと分かった。SDGsは誰一人取り残さないことを言っているけれど、逆に取り残すことができないくらいたくさんの人の協力が必要だと思った。
- ・自分の住む街が今よりもどうしたらよくなるかを考えるいい機会になりました。目標とする17のゴールやそれぞれの目標の関係性から弘前市の改善点に対して話し合うことで自分だけでは思いつかないアイデアが浮かび、より深く考えられたのでよかったです。



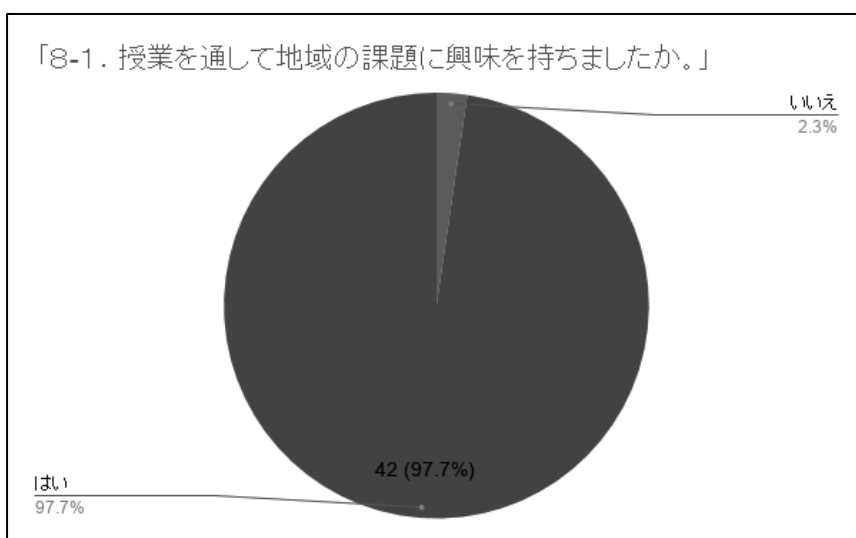
○理由（一部抜粋）

- ・若者の投票率、政治参加が低い要因を見つけ、改善する方法を考えることで若者の意欲を上げる方法を見つけ出すことができた。
- ・もともと政治に興味はあったが、調べたりすることはしなかった。しかし、今回の授業で、若者の投票率の低下が課題とされていることが挙げられ、少し危機感を感じることができた。自分たちが行動しないから、若者向けの政策が少ないということは、若者たちが認識しなければいけない事実だと思った。また、一層政治についての興味が湧き、若者の投票を習慣化するためにはどのような取り組みが効果的なのか、自分でもちゃんと考えたいと思った。
- ・今まで私は選挙に行ったことがなかったが、なぜいかなかったのかを改めて考え、他の人の意見を聞くことで自分の持っている権利を使うべきであると感じた。次回の選挙からは公約をみて、立候補者を比較し、投票にしようと思う。
- ・若者が政治参加することの意味を学ぶことができた。また、アイデアの生み出し方や、柔軟な視点・発想を持つことの大切さを学ぶことができたので、これからの学業、社会人としての仕事に生かしていきたいと思った。



○理由（一部抜粋）

- ・健康は身近な問題だけど、その分、常に意識するような問題ではなかったので、自分の健康や将来の健康についてまで見直すことができて良かった。
- ・若者の運動不足は、すごく重要な問題だと思った。今はスマホやゲーム機が充実しているため、インドアな若者がとても増えているように感じる。その問題を解決するためには、やはり同じ若者の視点から対策を考えて実施していかなければならないのだと考えさせられた。また、大学生は時間に追われて食事管理が疎かになりがちなので、その部分も変えていかなければならないと思った。自分の健康意識を向上させるいいきっかけになった。
- ・将来健康でいるためには現在の習慣が大事であるとわかった。自分だけでなく、自分の周りの大切なひとたちにも今日学んだことを伝え、健康に生きていきたい。
- ・自分の生活について考えるいい機会になりました。身体の健康については考えることがあったが、心の健康についてはあまり考えることが無かったのでこれからは心身ともに健康になるような生活を送るように改善していきたいです。
- ・健康に関しては生涯を通して意識しなければならないものであり今後のライフプランと合わせて自分を見つめなおすいい機会となった



○「はい」と回答した理由（一部抜粋）

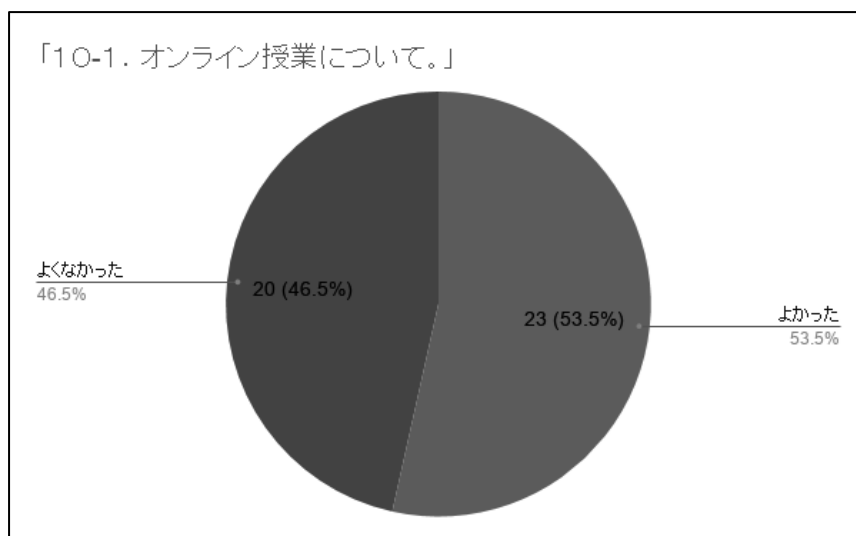
- ・今回の共通授業によって新たな知識を得たことで、その知識から今までとは違う見方で地域を見ることができるようになったから。
- ・今探しているところが生涯暮らすところであってもなくても、今暮らしている限りその地域の一員である自覚を持つことを感じたから。また、その意識の持ち方は地元や新しい地域に行っても繋がることで、今過ごす中でたくさん吸収したいと思ったから。
- ・他大学の方と一緒にだったので自分には思いつかないような考えを知ることがおもしろく、もっと深く考えたい、新しい改善策を見つけたいと思ったから。
- ・社会現状と地域、そして自身の関りを振り返るいい機会だった。新たな知識や、グループワークを通じた思考力の成長があったと思う。
- ・自分たちが住む街をよくするためには、自分たちから能動的に課題をみつけ、行動を起こすことが大切だと学んだから。
- ・頭を柔らかくして、世界的な問題もローカライズして考えていく必要があると思ったから。

○「いいえ」と回答した理由

記述なし

「9. あなたが考える地域の課題を記入してください。」（一部抜粋）

- ・1. 交通機関があまり充実しておらず、どこに行くにも何かと手間がかかってしまう。2. 働き口が少ない。
- ・高齢化によって地域社会が保てなくなること。不便だから、仕事がないからという理由で県外に若者が流出してしまうこと。
- ・少子高齢化、そして健康問題が青森では切っても切り離せないものであると思うので大学を卒業する若者を地域にそのまま住んでもらえるようなまちづくりが重要ではないのだろうかと思う。
- ・観光資源はあるので、それをどうやって活用していくか考えていく必要があると思いました。
- ・道が狭く、冬に雪が降ると危ないこと。
- ・私が考える地域の課題は若い人たちが地域から離れて、違う場所で就職して住むことが多いことだと思います。
- ・就職や、進学を県外にし、過疎化が進んでいる。少子高齢化が進み、小学校がどんどん閉校していき、高齢者を介護する介護士が少ない。
- ・ネット普及率が低いために、情報を取り入れられないところがある。
- ・弘前だけでなく青森全体を通して少子高齢化や土地の過疎化が進んでいく一方で、地域を支える若者が引っ張っていかないと負のスパイラルが永遠に続くこと。

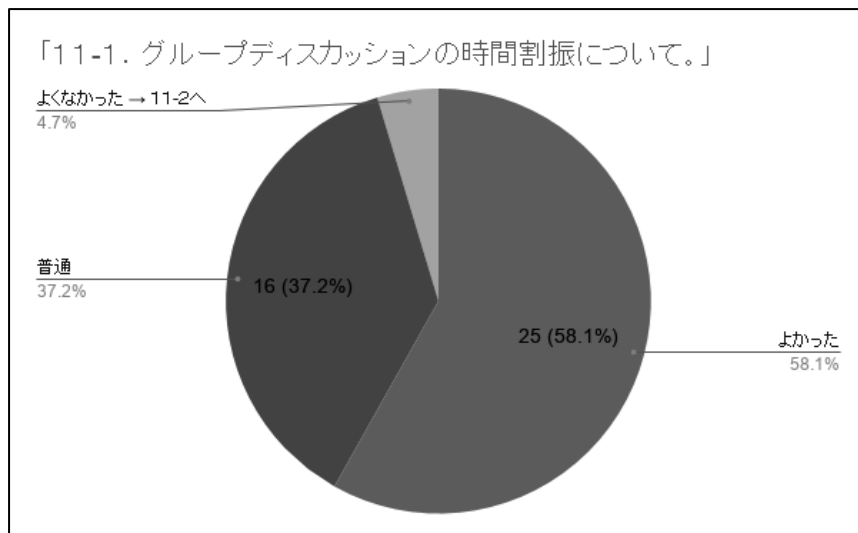


○「よかった」と回答した理由（一部抜粋）

- ・コロナという状況でなくても大人数で集まるということは大変であるのに対して、環境さえ整えばかなりの人数が集まれるシステムというのは非常にいいものだと思う。
- ・オンラインでもみんなの顔が見えるし、ホワイトボードなど使って効率よく話し合いができたから。
- ・私の大学ではオンライン授業は開催されていないため、今回オンライン授業を体験できたことがよかったと思える大きな理由である。また、将来就職してもオンライン上での会議などがあると思うので、この経験を活かしたいと感じた。
- ・顔をつき合わせなくていいので、適度に距離感をもった対応を心掛けられていると思ったから。チャットで他の人を気にせず好きなタイミングで意見を出せるところ。
- ・オンラインだからこそ意見が出しやすかったので色んな考えが出せたと思います。でも、対面だったらそれでいいところがあったのではないかと思います。
- ・ほかの学校の生徒や先生など普段話す機会があまりな人と一緒に講義を受けたことで、考え方の視点が増えたから。
- ・休み中にどこに行っていたか分からない方と対面して授業を受けるのは不安だった。また、画面越しだからこそ操作に慣れは必要であったが初対面の人と話すのが苦手なので対面して話すよりも緊張せず意見を出せた。

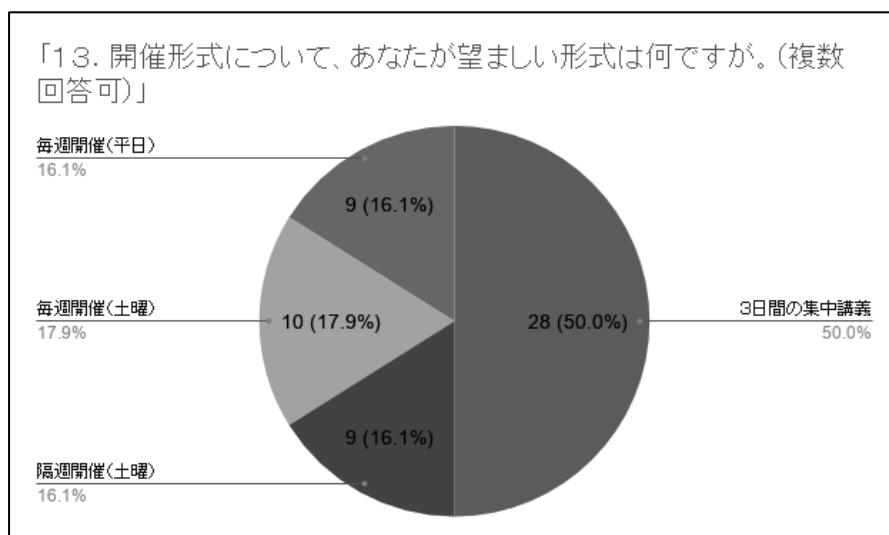
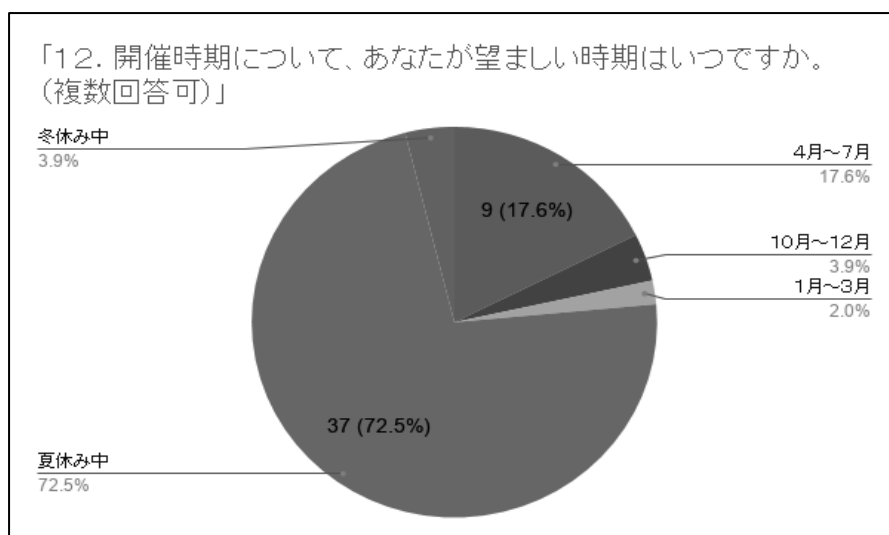
○「よくなかった」と回答した理由（一部抜粋）

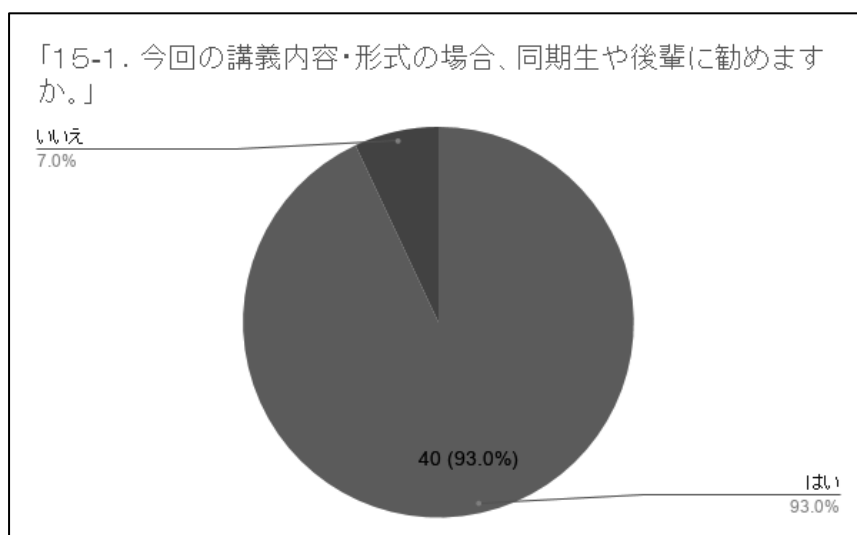
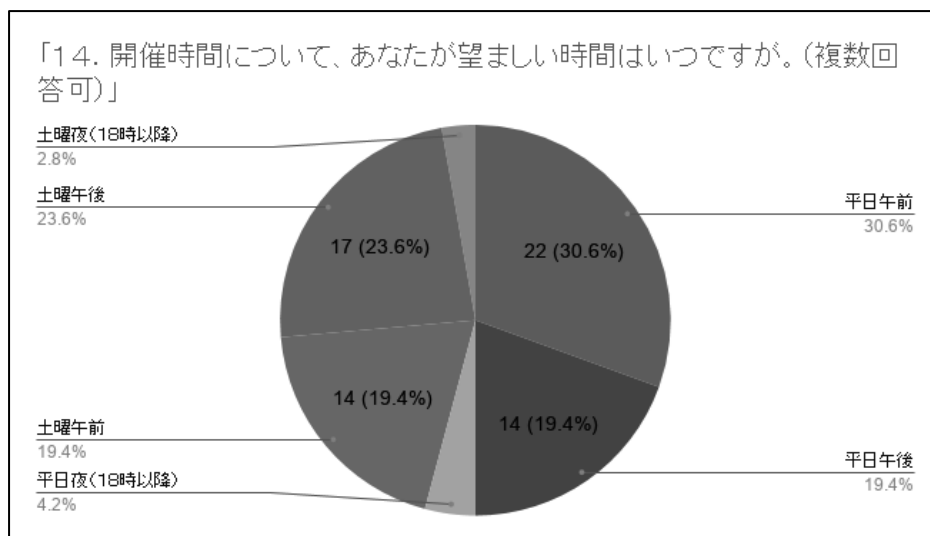
- ・実際に同じ場所において顔を合わせながら話した方が、緊張感や距離感ももう少し緩和されて話しやすい雰囲気になっていたのかなと感じた。
- ・チームでの意見交換がしづらかった。やはり対面の方が、もっと活発にグループワークができたろうなと思った。また、資料作りが共同でできないので、1人に任せてしまう形になってしまった。途中で、通信環境が悪くなり、接続が切れてしまったことが何度かあった。
- ・ずっとパソコンの画面を見ているため目が疲れるなど、疲労が大きいなと思った。
- ・ソーシャルディスタンスを守るためには良かったと思うが、やはり直接顔を合わせて話し合えればよかったと思ってしまったから。（そのほうが話し合いもスムーズにいき、準備する側も色々楽だったと思う。）



○「よくなかった」と回答した理由（一部抜粋）

- ・話し合いが時間通りに終わった時に、いきなりの時間延長は少し進行しづらかった。
- ・深くまで考えるには時間が足りなかったように感じます。





○「はい」と回答した理由（一部抜粋）

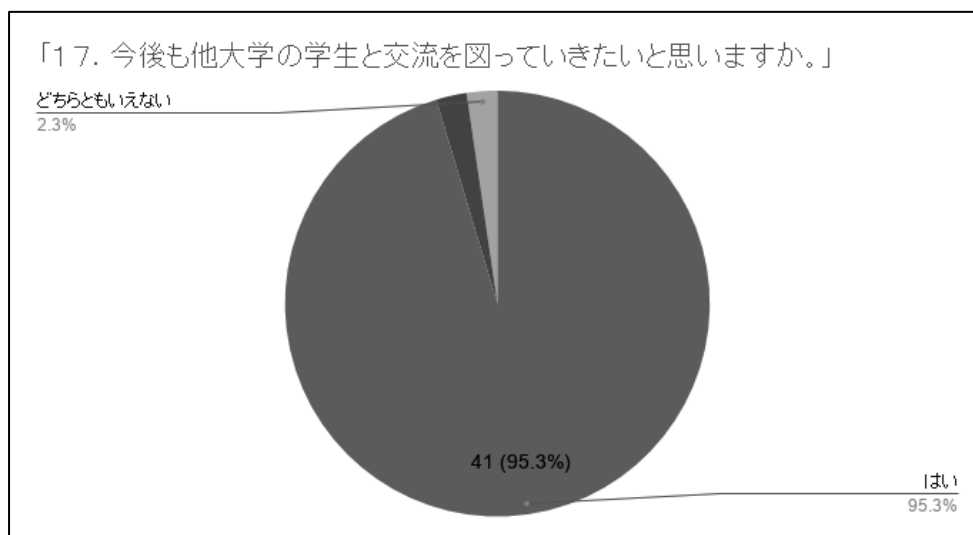
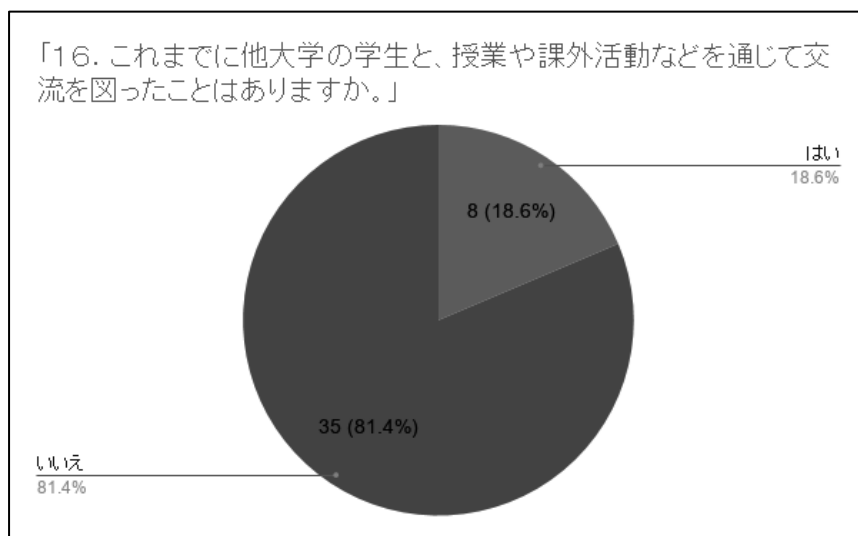
- ・他の大学の学生と関わる機会は少ないと思うので、この機会を通して人脈を増やして、弘前市についても学んでほしい。
- ・普段の授業や課題が忙しくても夏休みの集中講義なら余裕があるから。他大学の人と関わる貴重な機会だから。普段自分では考えないテーマについて考えるきっかけになるから。
- ・自分の住む街の問題がわかる。さらに、その問題に対してどのような取り組みが行われているのかもわかる。
- ・他の大学の方の意見を聞けたり、自分の意見をみんなに発表する場となるから。
- ・普段の授業では得られない知識を得ることができるし、様々な考えに触れることができるから。他大学の人と関わり、コミュニケーション能力も上がりそう。
- ・内容としては、視野が広がり今後の活動に生かせるものなので勧めたいと思う。オンラインという形式に関しては、画面上だからこそそのコミュニケーションの取り方を学べるいい機会になると思うので勧めたいと思う。
- ・いろいろな学校の方との繋がりが広がると思うし、グループワークが楽しく、こういった活動が社会に出たときに役に立つと思うから。
- ・自分の大学の人だけではなく、他の大学の人とも話すことで新たな意見や価値を得ること

ができると思うから。

- ・地域についての仕事を考えている人にピッタリだと考えたから。
- ・授業内容がとても自分のためになると感じたし、グループワークなどが多くて楽しかったから。
- ・講義の内容はとても考えることや、自分から発信することが多かったので、自分を成長させる良いきっかけ作りになると思うから。また、将来地方での就職を考えている人にとっては、地方についてよく知れる・考える機会になると思うから。

○「いいえ」と回答した理由（一部抜粋）

- ・他の大学の学生も混ざってコミュニケーションをとる必要があるので、オンラインだと良さが出にくいと思うから。



「18-1. 共通授業をとおして「よかった点」。(一部抜粋)

- ・資料作成をしたり、企画を考えたり、自主性をもって取り組める企画が多かったこと。
- ・コミュニケーションが取れたこと、地域の問題について考えられたこと。
- ・他大学の学生ともコミュニケーションをとれたこと。
- ・他の大学の学生・教師や弘前市の担当者などの話や意見を聞くことができたこと。

- ・様々な人の意見を聞いたり、知らなかったことをたくさん知ることができて良かったです。
- ・一日ごとにグループのメンバーが代わったのは多くの人と会話ができ良かった。
- ・自分たちや先生方の話だけに留まらず、市役所の方々の話を聞けたところ。それにより、話の内容や問題・課題がよりリアルに感じる事ができた。
- ・オンラインでの発表のため、スライドが見やすい。
- ・ただただ講義を聞くのではなく、他の学生と課題を作って自主性を育めるのがいいと思った。話すことが好きなのでよかった。
- ・いろいろな個性を持つ学生さんたちと出会え、交流できたこと。自身でも問題視していた課題に向き合えたこと。
- ・普段学んでいる専攻以外のことを学べて頭が柔らかくなった点。
- ・他大学の教授の方々の講義が聞けたこと。他大学の学生の方々と話し合えたこと。
- ・グループワークで話をまとめたり進めたりするのは慣れないととても難しいことだと実感することができた。考え方が柔らかくなった。
- ・今まで考えたことがなかったことや身近なことにもいろんな意見を通して考えられたのが一番いいと思いました！疲れましたがとても楽しかったです!!
- ・地方の課題に対しての対策について知る機会は、自分で調べる以外の方法は無いので、授業として知れることはとても良かった。また市の方からも直接お話を聞けたのは良い機会になったと感じた。また、学生のアイデアに対して、コメントも返してもらえたので、どの部分の考慮が不足していたのかを気づくこともできる良い機会だった。

「18-2. 共通授業をとおして「よくなかった点」。」(一部抜粋)

- ・グループワークの時間が多少短く感じた。意味が分からない横文字や用語が多く理解に苦しんだところがあった。
- ・3日間違うグループだったけど、一日だけみんな静かで少し気まずかった。ホワイトボードなどをつかいこなせなかった。
- ・オンラインでほかの方と交流を深めることができなかつた点。
- ・どうしても長時間パソコンに向かうことになるので通常より目が疲れる。まとめるときは画面を共有しながらやることになるので、操作が苦手な人は慣れが必要だと思う。
- ・グループワークで発表者が偏っていた。
- ・自宅のwi-fi環境により数回アプリが落ちてしまい話し合いに少し支障が出たこと。
- ・話し合いの時間が長すぎて、暇な時間があった。
- ・話し合いの際に、周りの音が入ってしまい、聞こえないことがあった。
- ・オンラインで授業を行ったので授業時間で話し合う時間をもう少し多く取れたらいいと思うことがあった。
- ・初めての動作が多く、戸惑ってしまったことなどから、一つ一つのことをするにも時間がかかってしまった点。
- ・グループワークは楽しかったが、やはり初対面の方とのコミュニケーションは対面の方がとりやすいし、打ち解けもしやすいと思うので、その点がよくなかつた点でした。
- ・対面であれば、ないのですが初めて使用する zoom の操作を覚える必要があった。長時間パソコンの画面を見ると眼が疲れること。
- ・3日間、朝から夜まで行うのは体力的に限界でした。もっと時間を短く(昼まで etc)して日にちを長くしたほうがいろんな学生と交流の輪を広げることが出来るし、疲れにくくて良い

と思えました。

- ・今回に限りますが、やはりオンラインということもありたまにじれったい場面があったことです。対面で実施していたらかなり満足していたと思います。
- ・対面することができなかったのが心残りでしたが、初めてオンラインでの授業だったので新鮮で楽しかったです。
- ・時間延長が多すぎたため、タイムキーパーはとても大変そうだった。オンラインだからこそだとは思ったが、もう少ししっかりとした時間設定をしてほしいなと感じた。オンラインであるため、話し合いがしづらかった。すぐに話し合いが始まらないチームに対しては、先生方からリーダーを決めるなどの誘導をしていただくとやりやすくなるのではないかなと思った。

7. 授業の成果

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策の観点からオンライン（ZOOM）により、継続テーマである「持続可能な街づくり」と「若者の政治参加」に加え、新規テーマである「持続可能な若者の健康づくり～何が健康をつくるのかを考える～」を開講した。

学生と教員の双方が不慣れであるオンライン授業であったが、大きなトラブルもなく無事に実施することができた。学生からは「オンライン授業を体験できたことは、将来就職してもオンライン会議があると思うので、この経験を活かしたい。」や「(新型コロナ感染の観点から) 休み中にどこに行っていたか分からない方と対面して授業を受けるのは不安だったのでよかった。」等の意見がよせられた。学生・教職員共に新たな時代へ対応していく下地形成の一助になったと感じている。

授業内容について、学生から「自分たちや先生方の話だけに留まらず、市役所の方々の話を聞いたことにより、話の内容や問題・課題がよりリアルに感じる事ができた」や「なかなか触れることのなかった課題に関して議論したり、イベント等について考えたりすることは新鮮でしたしとても面白くためになりました」、「グループワークで話をまとめたり進めたりするのは慣れないととても難しいことだと実感することができた。考え方が柔らかくなった。」等の意見がよせられ、学生の課題に対する捉え方や思考・議論の方法について学ぶ機会となった。

学生の自発性や自己啓発を促す質の高い授業を提供することができた。受講する学生は毎年変化するが、今年度は、昨年度の内容からさらに深く授業を展開することができたことで、来年に繋がる良い内容の集中講義となった。

8. 次年度開講に向けての課題

今年度は新型コロナウイルス感染症対策のためにオンラインにより開講した。教職員・学生を含めオンライン上での講義及びグループワークは不慣れであり、特にグループワーク時の機器操作に戸惑っている場面があった。また、ネットワーク環境や機器性能に個人差があり、何度も接続が落ち授業への参加が中断される学生がみられた。

次年度もオンライン開講が必要な場合を想定し、今回作成したマニュアルを直感的に理解できるようブラッシュアップするとともに、グループワーク時の機器操作を手厚く事前ガイダンスにて説明し対応できるよう準備したい。また、ネットワーク環境や操作機器に不安がある学生には学内講義室及びレンタルPC貸出等の対応を手厚くしたい。

講義内容について、アンケート結果から概ね良い評価だったと感じている。学生が困惑していた場面等を振り返りながら次年度に繋げていきたい。

令和 2 年度活動報告

Ⅱ．連携推進事業

6 大学合同シンポジウム

1. 趣旨

来場者が興味を持ちやすいテーマを設定し、市民向けの公開シンポジウムを開催する。また、会場内でコンソーシアムのパネル展示等も併せて行い、コンソーシアムをより多くの人に知っていただけるようPR活動をする。

2. 概要

○テーマ

「これからの生活を考える～感染症に負けないために一人一人ができること～」

○内容

新型コロナウイルス感染症が国民の健康や経済活動、生活に大きな影響を与えています。私たちが、これからも健康な生活を送るためには、新しい生活様式への変換と一人一人の行動が重要です。シンポジウムを通し、新型コロナウイルスの特徴や風邪やインフルエンザとの違いなどについて学び、with コロナの生活を考えるために、弘前医療福祉大学教授 中根明夫氏に講演いただきました。

○日時

令和3年1月23日(土)
13時30分～15時00分

○聴講方法

- ・公開視聴会場（土手町コミュニティパーク）
- ・オンライン配信（アップルストリーム）

<http://applestream.jp/7208/>

※LIVE 及びアーカイブ

○基調講演講師

中根 明夫 氏（弘前医療福祉大学 教授）

○聴講者

公開視聴会場 : 20名
オンライン配信 (LIVE) : 110名
オンライン配信 (アーカイブ) : 500名

○共催

弘前市

大学コンソーシアム学都ひろさき 6大学合同シンポジウム

これからの生活を考える

参加費 無料 対象 学生、市民、大学関係者、行政関係者等

～感染症に負けないために一人一人ができること～

新型コロナウイルス感染症が国民の健康や経済活動、生活に大きな影響を与えています。私たちが、これからも健康な生活を送るためには、新しい生活様式への変換と一人一人の行動が重要です。シンポジウムを通して、新型コロナウイルスの特徴や風邪やインフルエンザとの違いなどについて学び、with コロナの生活を考えるために考えたいと思います。

日程	プログラム
令和3年1月23日(土) 13時30分～15時00分頃	13時30分 開会挨拶
	13時35分～14時55分 基調講演 ※質疑の受付 「新型コロナウイルスとどう向き合うか」 基調講演講師 弘前医療福祉大学 教授 中根 明夫
	14時55分 閉会挨拶

■ 日程
令和3年1月23日(土)
13時30分～15時00分頃

■ 定員
◎公開視聴会場の定員20名
◎アップルストリーム(オンライン配信)は無制限。
事後視聴も可能です。
※社会情勢により公開視聴を中止する場合があります。

■ 視聴方法
◎土手町コミュニティパーク(公開視聴会場) 予約あり
◎アップルストリーム(オンライン配信) 予約あり
URL: <http://applestream.jp/>

■ 申し込み・お問い合わせ
大学コンソーシアム学都ひろさき
FAX: 0173-39-3919
E-Mail: conso@hiroaki-u.ac.jp
※必須記載事項
氏名・住所・電話番号・
FAX番号・メールアドレス

■ 申込方法
①公開視聴：事前予約制(先着順)・青森県内在住者対象
※定員は超過しなくなります
②オンライン：申込不要 アップルストリームHPから視聴可能

■ 事前決済
本シンポジウムのテーマに関する質問や事務局に受け付け、当日に基調講演講師 弘前医療福祉大学教授 中根明夫先生より回答いたします。
◎同時申し込みはできません
◎質問受付 令和3年1月15日(金)まで

主催：大学コンソーシアム学都ひろさき
(弘前大学、弘前学院大学、東北女子大学、東北女子短期大学、弘前医療福祉大学、放送大学青森学習センター)
共催：弘前市
協賛：令和3年度大学コンソーシアム学都ひろさき活性化推進事業(補助金) 対象事業

3. シンポジウムの様子

【司会】長谷川 直生

(弘前大学社会連携部社会連携課社会連携グループ課長・大学コンソーシアム学都
ひろさき企画運営委員)

基調講演

「新型コロナウイルスとどう向き合うか」

講師：中根 明夫 氏(弘前医療福祉大学 教授)

基調講演では、『新型コロナウイルスとどう向き合うか』をテーマに、弘前医療福祉大学 教授中根 明夫 先生を講師に迎えた。当日は人数制限のため来場出来ない方を考慮し、事前質問を募集したところ、「日常生活における感染リスク」「ワクチンに関すること」「コロナ収束がいつになるのか」「後遺症について」等の多数の質問が寄せられ、この内容を踏まえて、まずは「世界と日本の状況」や「コロナウイルスとは」を皮切りに、「コロナウイルスの治療やワクチン接種」、「感染予防」について説明があり、終わりに「今後の予測」について述べられた。

会場を訪れた参加者からは、「感染者に対する誹謗中傷は日本特有なのか」「集団免疫獲得に必要な抗体保有率の根拠とは」「ワクチンの必要接種回数は」「マスクの種類や付け方」「日用品におけるコロナウイルスの生存期間」等の多数の質問があり、このテーマに対する関心の高さが伺える有意義なシンポジウムとなった。



中根 明夫 氏



ご講演の様子



質疑応答の様子

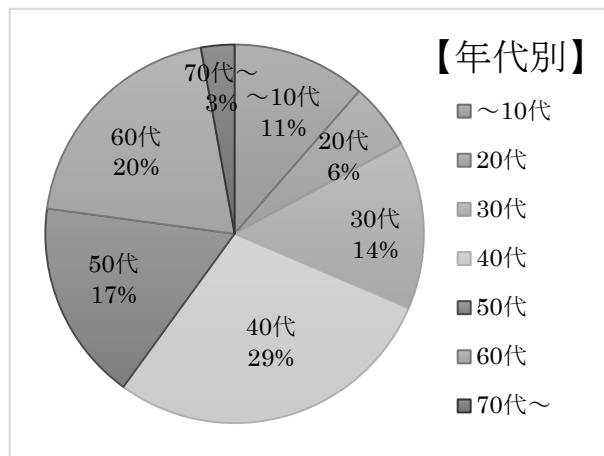
4. アンケート

○来場者数	: 20名	○アンケート回答者数	: 35名
○視聴者数	: 110名	○アンケート回答率	: 26.92%

○回答者内訳

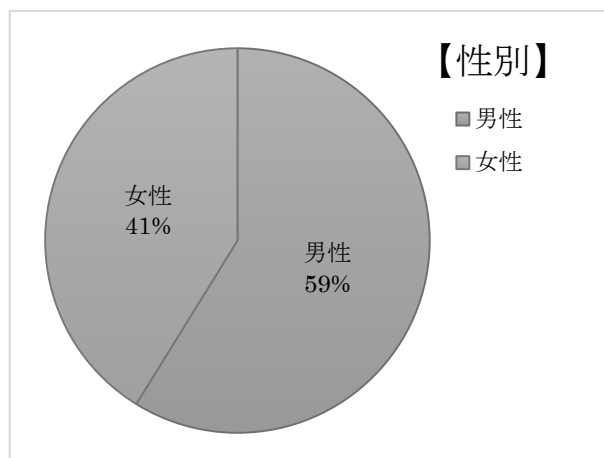
【年代別】

	回答者数
～10代	4
20代	2
30代	5
40代	10
50代	6
60代	7
70代～	1
計	35



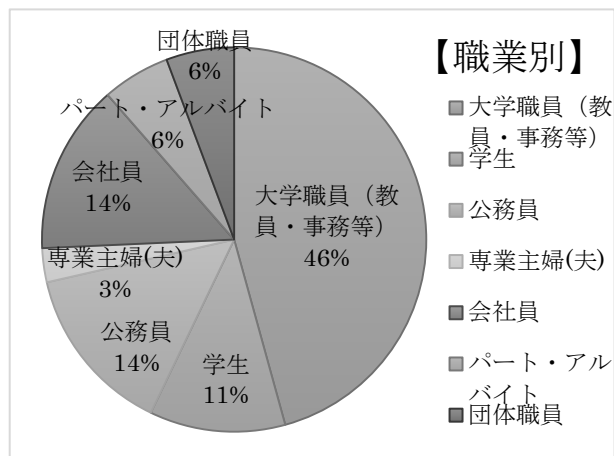
【性別】

	回答者数
男性	20
女性	14
無記入	1
計	35



【職業別】

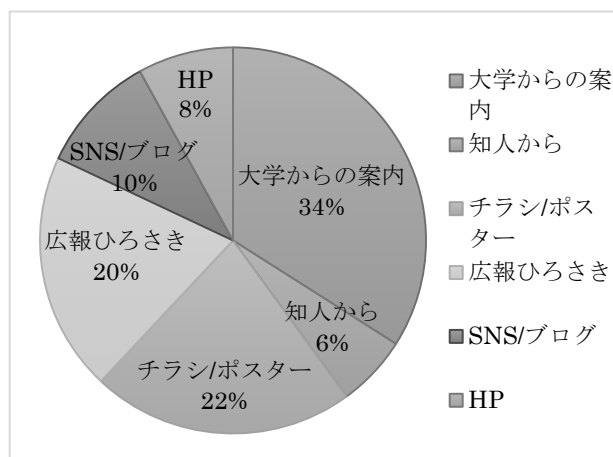
	回答者数
大学職員（教員・事務等）	16
学生	4
公務員	5
専業主婦（夫）	1
会社員	5
パート・アルバイト	2
団体職員	2
計	35



○今回のシンポジウムを何で知ったか。

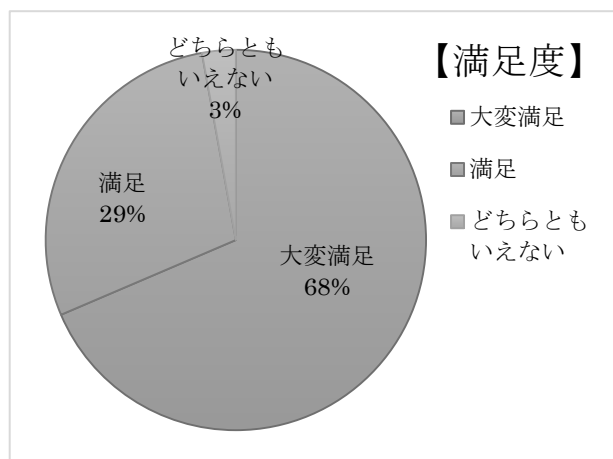
	回答数
① 大学からの案内	17
② 知人から	3
③ チラシ・ポスター	11
④ 広報ひろさき	10
⑤ SNS・ブログ	5
⑥ HP	4
計	50

※複数回答あり



○講演について

	回答数
① 大変満足	24
② 満足	10
③ どちらとも言えない	1
④ ややもの足りない	0
⑤ もの足りない	0
計	35



○感想等

【シンポジウム感想等】

- ・タイムリーで、関心が高いテーマであり、活発な意見交換につながったこと。事前質問を受けそれに回答する形の講演は有意義であったこと。WEBでの参加ができ便利でした。弘前市における大学の存在意義を示す機関として、コンソには期待しております。ありがとうございました。
- ・大変判り易くて、ためになりました。ありがとうございました。
- ・わかりやすい内容だった。
- ・講師の方の説明が大変うまくとても分かりやすかったです。新型コロナウイルスの対策は自分なりに分かっているつもりでしたが、講演を聴講することにより、改めてコロナにどう向き合っていけばいいか分かりました。
- ・わかりやすい内容で大変勉強になりました。
- ・コロナについて症状から感染経路まで分かりやすく説明していたのでとても良かった。
- ・中根先生の説明がとても分かり易く、充実した内容であったと感じます。今後もコロナと共存しながら暮らすのは、仕方のないことですが、普段からの手洗い・うがいを更に徹底して感染予防に努めるとともに、誹謗中傷のない環境づくりも必要だと感じました。ありがとうございました。

- ・話が具体的でわかりやすかった。
- ・非常にわかりやすかった。
- ・タイムリーなテーマで、専門的な内容も含みながら、一般の人にもわかりやすい内容であった。次回のシンポジウムも楽しみにしています。
- ・コロナウイルスについて知らないことが多かったので知ることができてよかった。
- ・非常に参考になりました。わかりやすい内容で、家族同僚ともう一度視聴し復習したいと思います。
- ・とても勉強になりました。
- ・新型コロナウイルスに関して大変勉強になりました。今までは、わからないことが多く不安が強かったのですが、今日、理解できたことによって自分自身でできることや今後の見通しが聞けたことで不安感が少なくなりました。学ぶことの重要性が再認識できました。ありがとうございました。
- ・根拠を示しながら、それでいて平易な言葉でわかりやすい講演であった。また、講演後の質疑応答も同様で、これから自分が気を付けるべきことが理解できた。
- ・現状およびこれからのくらしに大いに役立つと思う。
- ・必要な状況は論文からまとめられていてわかりやすくテレビなどでは伝えられていない情報もあり知識が増えました。個人的にはPCR法やLAMP法のもう少し具体的な説明が欲しかったのですが生物の知識がない方には難しいでしょうか。
- ・ありがとうございました。見入ってしまいあっという間に終わった感じです。新型コロナをテーマに複数回に分けて詳しく聞きたいと思いました。
- ・Covid-19について誤解や間違った知識を得ていることを知ることができた。感染経路や人獣感染の有無など、大変有用な情報をいただきました。もっと多くの方が本講座を聴講すべきと思います。

【要望等】

- ・音声のとぎれ無音が続く箇所が複数回あり、また音量が大変小さかったのでパソコン、スピーカーの音量を最大にしても聞き取りづらい部分がありました。オンライン配信技術の改善をお願いしたいです。
- ・発表者の声が聞こえない。集音するのであれば、近くでするなど工夫が必要です。

5. 新聞記事

陸奥新報社提供

令和3年1月24日(日) 2面

この中で、重症化する人
としない人の違いについて、
重症化する人はウイルス
感染時に対抗して生じる
「インターフェロン」がな
い、もしくは低く、最初は
症状があまりなくてもその
後「サイトカインストー
ーム」で激しい炎症を起す
という研究の一例を示し
た。また再感染については
1ヵ月以下とわれているこ
とや、3回行っていると
いうワクチン接種については
「1回目で免疫を付け、2
回目で免疫力を上げる。1
回では効果は低い」などと
した。

傾向から、10年おきぐらい
に新しいコロナウイルスが
出てくる可能性は高い。も
洗いやマスクの正しい着用
と今回取戻したとしても感
染病との付き合いを絶つこ
とは難しい」などと、手
や、感染者を誹謗中傷しな
いことなどを改めて呼び掛
けた。

(西尾 瑛)

**6大学
6シン
前編
弘前医
福地大**

**新型コロナウイルス特徴は
中根教授が講演**

弘前市内の6大学でつく
る「大学コンソーシアム学
都心のまき」の合同シンポ
ジウムが23日、同市内で開
かれ、弘前医療福祉大学の
中根明夫教授が「新型コロナ
ナとどう向き合うか」と題
し、収束の見えない新型コ
ロナウイルスの特徴や症
状、ワクチンなど今後の見
通しについて分かりやすく
紹介した。

同コンソーシアムは、教
育・文化や地域振興を目的
に活動しており、シンポジ
ウムは年に1度、テーマを
定めて開いている。

講演した中根教授は感染
症学などが専門。事前に市
民から寄せられた質問や、
世界で行われているさまざ
まな研究も踏まえながら、
感染方法や症状、後遺症、
PCR検査と抗原検査の違い
などについて説明した。



新型コロナウイルスについて説明
する中根教授

6. 事業成果

本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため入場制限を設け、公開視聴会場及びオンライン配信（アップルストリーム）との同時開催となった。

会場を訪れた参加者からは、「改めてコロナにどう向き合っていけばいいか分かった。」「コロナと共存しながら暮らすのは仕方ないことだが、感染予防を徹底し、誹謗中傷のない環境づくりにも努めたい。」などの意見があり、関心度の高いテーマに多くの反響が寄せられ、大変有意義なシンポジウムとなった。

各大学公開講座等助成事業

1. 各大学公開講座等助成事業とは

本コンソーシアムを構成する弘前市内6大学が行う公開講座等事業（以下「事業」）の実施を補助することにより、各大学の特色を活かしながら蓄積する知を広く市民に向けて発信・還元することで、高等教育機関が集結する「学都ひろさき」を強く印象づけるとともに、市民が本コンソーシアム及び大学を身近な存在であると感じ、市民による大学の活用を促すことを目的とする。

2. 補助を行った事業


(1) 弘前医療福祉大学短期大学部

事業名称	青森県産食材を使った料理作品展
主催	弘前医療福祉大学短期大学部
内容	<p>学習成果発表の場として毎年、青森県産食材を使用した日本・西洋・中国料理のコースメニューを考案・製作して展示・公開し、調理実習担当講師による表彰のほかに、一般来場者による投票を実施した。</p> <p>また、津軽を代表する郷土料理として昔から親しまれてきた「粥の汁」を、若い世代の視点から工夫した「アレンジ粥の汁」として試食を提供した。</p> <p>さらに、県産食材を使用した料理を紹介することにより、県産食材の消費拡大につながることを願うとともに、「食」にかかわる様々な話題や情報を発信した。</p>
日時	令和3年2月27日（土）11:30～15:00
会場	弘前市土手町コミュニケーションプラザ1階多目的ホール




<p>実施状況等</p>	<p>○参加人数：112名</p>  <p>講演会の様子</p>
--------------	--

(2) 放送大学青森学習センター

<p>事業名称</p>	<p>放送大学青森学習センター公開講演会 「高校生の夢を津軽から世界へ ～“こけす”の製作と普及を通して～」</p>
<p>主催</p>	<p>放送大学青森学習センター</p>
<p>内容</p>	<p>青森県立黒石商業高校の「課題研究」の授業からスタートした「こけし」と「チェス」のコラボ商品である“こけす”の製作や普及活動を通して、地場産業である津軽系伝統こけしの知名度の向上や黒石市の活性化を目指すとともに、世界的なゲームである「チェス」とのコラボレーションによって、国内はもちろん海外の方々へもアピールできる商品としての魅力を生み出してきたユニークな発想の源や、退職後も生徒から出された様々な研究仮説や提案を検証しようと、自ら様々な活動を続けている熱い思いを語っていただいた。</p>  <p>講演会チラシ</p>
<p>日時</p>	<p>令和2年11月7日（土）13時30分～15時00分</p>
<p>会場</p>	<p>コラボ弘大8階 八甲田ホール</p>

<p>実施状況等</p>	<p>○来場者数：13名</p>  <p>講演会の様子</p>
--------------	---

(3) 東北女子短期大学地域文化センター

<p>事業名称</p>	<p>公開講座「岩木山の恵みを楽しもう～あなたの知らない山の世界」</p>
<p>主催</p>	<p>東北女子短期大学地域文化センター</p>
<p>内容</p>	<p>弘前を中心とした津軽地域の特色を知り、そこから地域の問題について学ぶ本学独自の科目を、弘前市百沢のメープルハウス山村オーナーの相馬芳廣さんを講師に迎え、一般や中・高校・大学生向けに開講した。</p> <p>また、観光ガイドには載っていない岩木山の楽しみ方、岩木山に自生する山菜の採り方や加工方法等も講演いただいた。</p>  <p>講演会チラシ</p>
<p>日時</p>	<p>令和3年1月23日（土）10時00分～12時00分</p>
<p>会場</p>	<p>東北女子短期大学</p>
<p>実施状況等</p>	<p>○来場者数：13名（オンライン参加：42名）</p>

日時	令和2年11月3日(火) 13時00分～16時10分
会場	弘前大学創立50周年記念会館2階 岩木ホール
実施状況等	青森県内、弘前市内において新型コロナウイルス感染症の流行・拡大が止まらず、講座の実施が中止となった。

(5) 東北女子大学


事業名称	青森の健康2020「食生活によるコロナウイルス感染予防」
主催	東北女子大学
内容	<p>正体不明なコロナウイルスから身を守る方法として、食生活による新型コロナウイルスの感染予防をテーマに公開講座を実施した。また、地元新聞社の記者を交えて第2波にむけてどのような食生活で対策をすべきか、感染予防の疑問に答え、地域の方々の意見交換を行った。</p> <p>〈基調講演〉 「短命県返上活動と食生活」 「食による免疫力向上の科学」</p> <p>〈展示・体験コーナー〉 「百聞は一見に如かず 食と健康の実験」</p> <p>〈シンポジウム〉 「日常生活からコロナウイルス対策を考える」</p>
日時	令和2年10月10日(土) 13時30分～16時00分
会場	弘前市民文化交流館ホール(ヒロロ4階)




講演会チラシ

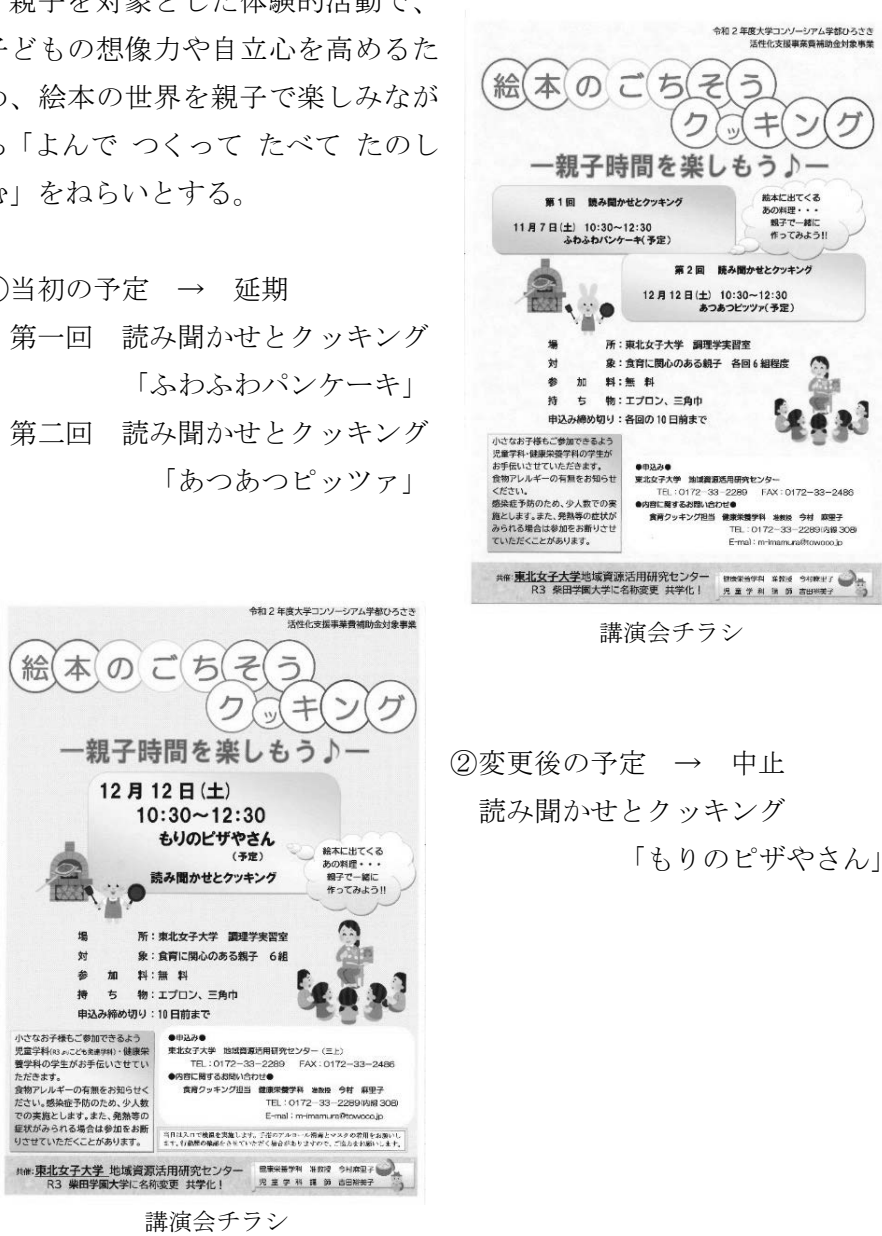
<p>実施状況等</p>	<p>○来場者数：55名</p>  <p style="text-align: center;">講演会の様子</p>
--------------	---

(6) 東北女子大学

<p>事業名称</p>	<p>ふれあい塾</p>
<p>主催</p>	<p>東北女子大学</p>
<p>内容</p>	<p>子どもの非認知能力を高めることを視点とした親子ふれあい事業として、午前幼児を対象とした自然の素材を生かした創作活動を行い、午後に児童を対象とした学校教育内容と関連付けた体験活動を行う。</p> <p>①当初の予定 → 延期</p> <p>第一部「青森県の自然素材を使った制作活動」</p> <p>第二部「おもしろ科学」</p>  <p style="text-align: center;">講演会チラシ</p>

	 <p>②変更後の予定 → 中止</p> <p>第一部「青森県の実素材を使った制作活動」</p> <p>第二部「おもしろ科学」</p> <p>講演会チラシ</p>
<p>日時</p>	<p>①当初の予定 → 延期</p> <p>令和2年12月12日(土) 一部10時30分～12時00分 二部13時00分～14時30分</p> <p>②変更後の予定 → 中止</p> <p>令和2年12月26日(土) 一部10時30分～12時00分 二部13時00分～14時30分</p>
<p>会場</p>	<p>ヒロロスクエア3階 市民文化交流館イベントスペース</p>
<p>実施状況等</p>	<p>青森県内、弘前市内において新型コロナウイルス感染症の流行・拡大が止まらず、親子活動を伴う講座の実施が中止となった。</p>

(7) 東北女子大学

<p>事業名称</p>	<p>絵本のごちそうクッキングー親子時間を楽しもうー</p>
<p>主催</p>	<p>東北女子大学</p>
<p>内容</p>	<p>親子を対象とした体験的活動で、子どもの想像力や自立心を高めるため、絵本の世界を親子で楽しみながら「よんでつくってたべてたのしむ」をねらいとする。</p> <p>①当初の予定 → 延期</p> <p>第一回 読み聞かせとクッキング 「ふわふわパンケーキ」</p> <p>第二回 読み聞かせとクッキング 「あつあつピッツァ」</p> <p>②変更後の予定 → 中止</p> <p>読み聞かせとクッキング 「もりのピザやさん」</p> <p>講演会チラシ</p> 

日時	①当初の予定 → 延期 第一回 令和2年11月7日(土) 10時30分～12時30分 第二回 令和2年12月12日(土) 10時30分～12時30分 ②変更後の予定 → 中止 令和2年12月12日(土) 10時30分～12時30分
会場	東北女子大学 調理学実習室
実施状況等	青森県内、弘前市内において新型コロナウイルス感染症の流行・拡大が止まらず、親子活動を伴う講座の実施が中止となった。

3. 補助事業実施による成果

本コンソーシアム構成機関が、コロナ禍によりこれまでのスタイルでは開催が困難ななかで、一部中止の事業も生じたが、各大学の特色を活かしたテーマを設定し、感染対策を講じながら公開講座を開催し、各大学が持つ知的シーズを提供した。これにより、高等教育機関が有する学術機能を地域社会に還元し、弘前市における教育・文化等の向上に寄与し、地域振興に貢献した。加えて、市民に「学都ひろさき」を印象づけ、市民による大学の活用を促すことが出来た。

【参考】同事業の要項

(1) 補助対象事業

次に掲げる条件のいずれかを満たす事業を補助対象事業とする。なお、学園祭で市民向けの公開講座として開催する事業は、補助対象外とする。

- ① 広く一般市民を対象とするもの
- ② より市民の目に触れ、より市民が参加しやすい形態で行われるもの（街なかの施設等、大学外の会場で行うなど）

(2) 補助金の交付額と補助対象経費

- ① 補助金の額は、原則、1大学あたり上限50,000円とする。
- ② 補助対象経費は、事業を実施するために必要な以下の経費とする。
 - ・会場借上費
 - ・チラシ・ポスター等印刷費（制作費）
 - ・チラシ・ポスター等発送費
 - ・事業実施に係る消耗品費
 - ・外部講師謝金
 - ・各号に掲げるもののほか、本コンソーシアム会長が必要と認めたもの

令和 2 年度活動報告

Ⅲ. 学生交流事業

ひろさき移動キャンパス

1. ひろさき移動キャンパスとは

本コンソーシアムを構成する6大学が共同で「学都ひろさき」の魅力を県外にアピールすることにより、弘前で学びたいという学生の増加を目指し、また、他地域コンソーシアムとの交流を深め、本コンソーシアムの充実を図ることを目的として、北海道函館市の「キャンパス・コンソーシアム函館」が主催する「HAKODATEアカデミックリンク」に、本コンソーシアム構成機関の所属する学生団体がブース出展をする。

2. 概要

○日時

令和2年11月28日（土）～12月20日（日）

○開催方法

アカデミックリンク2020特設ページによるオンライン開催

○参加団体

- ①弘前医療福祉大学救急救命研究会
- ②弘前大学ひろエネ
- ③東北女子大学小野研究室
- ④東北女子大学富士研究室
- ⑤東北女子大学ふれあい隊



3. 発表内容

○参加形態

ブース出展

○発表内容

①弘前医療福祉大学救急救命研究会

本事業は応急手当や緊急時の対処法の普及啓発活動を行うとともに、地域住民の救急救護に対する知識・技術の向上、および救急活動への理解を深めることを目的としています。養護教諭対象のアンケートから「緊急度判定について詳しく学びたい」「事例を多くして欲しい」「実際の校内での動き方を学びたい」との要望があったため、体験型シミュレーション、救急車を呼ぶか否かの判断基準である緊急度判定を取り入れた応急手当講習会を弘前市の教育機関に勤務する養護教諭と弘前大学教育学部養護教諭養成課程の学生を対象に開催しました。「体験型シミュレーション」は校内で生じ得る緊急事態を実際に再現し、受講者には養護教諭として対応してもらう演習訓練です。医学的知識を必要とするため、専門的な観察方法や病態について事前講義を行いました。その上で体験型シミュレーションを行うことで、知識・技術の定着化を図りました。

②弘前大学ひろエネ

昨今、エネルギーに関する地域住民の理解と行政政策のギャップが広がっています。対策や戦略では追いつき得ないほど、変動（Volatility）が激しく、不確実（Uncertainty）で複雑

(Complexity) で曖昧 (Ambiguity) になっている VUCA 時代において、私たちが暮らす弘前市でも、エネルギー意識啓発・理解促進が困難な課題になっています。

任意団体「ひろエネ」はエネルギーを題材に、未来の大人たちに対して、五感を活用した VAK (視覚・聴覚・体感覚) インプット、独自性・創造性を引き出すアウトプット、対話を通じたリフレクションの場づくりをしています。また、個人で着手できるような、創エネ・省エネ・消エネのノウハウを紹介し、それぞれの選択の幅を広げることをサブの目的に、課題解決に着手しています。

本発表では「親子でひろエネラボ ミニ省エネハウスをつくろう！」企画を中心に、活動を紹介しします。

③東北女子大学小野研究室

「子どもの権利」という言葉は、簡単に言えば「子どもたち一人一人を人間として尊重する」ということです。私たちは卒業研究で、さまざまな角度から子どもの権利がどのように守られるべきかを研究しています。耳の聞こえない子どもは音楽を楽しむことができないの？ 障害児本人だけでなく、そのきょうだいに対する支援はないの？ インターネット上でのトラブルから子どもたちを守るためにはどうしたらいいの？ Youtuber として活躍している子どもたちもいるけれど、そこに問題はないの？ 非行に走ってしまった子どもたちをどうすれば立ち直らせることができるの？ スクールロイヤーは学校で子どもたちを守ってくれるの？ LGBT の子どもたちが学校で学び楽しむことができるようにするために必要なことは何？ …研究はまだ途中ですが、私たちの調べたことに関心を持ってもらえると嬉しいです。

④東北女子大学福土研究室

ひまわりの会は、ダウン症児の療育相談活動と親同士の情報交換などを目的としたサークルです。月に一度、弘前市身体障害者センターの体育館に集まって、子どもたちはボランティアの学生たちと、歌を歌ったり、ダンスを踊ったり、ゲームをしたり、楽しく過ごします。その間、お母さんたちはお茶をしながら、ゆっくりおしゃべりをし、情報交換をします。このような活動がもう 37 年も続いています。

学生のボランティアは、主に弘前大学、弘前医療福祉大学、そして東北女子大学の学生がそれぞれ受け継いできました。ひまわりの会のボランティア活動は、福祉や医療、そして特別支援教育の道を目指す私たち学生にとっては、とても勉強になります。ダウン症の子どもたちは、人懐っこくて、楽しいことが大好きで、歌もダンスもノリノリです。

⑤東北女子大学ふれあい隊

東北女子大学では、弘前市にあるヒロイベントスペースで「ふれあい塾」を開催しています。内容として、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭を目指す児童学科の吉田研究室と花田研究室の学生が中心となって 2 部構成で企画しています。第 1 回目は、「青森県の花材を利用して Xmas リース作り」と「科学のおもちゃ作り」をテーマに、第 2 回目は「青森県の花材を利用してお正月花作り」と「みんなでプログラミング体験」をテーマに親子で活動しました。生花を

使用した作品が出来上がっていく中で完成した作品を見せ合うなど、微笑ましい場面が多く見られました。また午後の活動では、子ども達が目を輝かせてもの作りに意欲的に取り組んだり、プログラミングをしながらロボットを動かしていました。今回は、「青森県の自然の素材を利用した木材アート」と「誰でもできる科学マジック」を行う予定です。

○閲覧数

期間：令和2年11月28日（土）～12月20日（日）

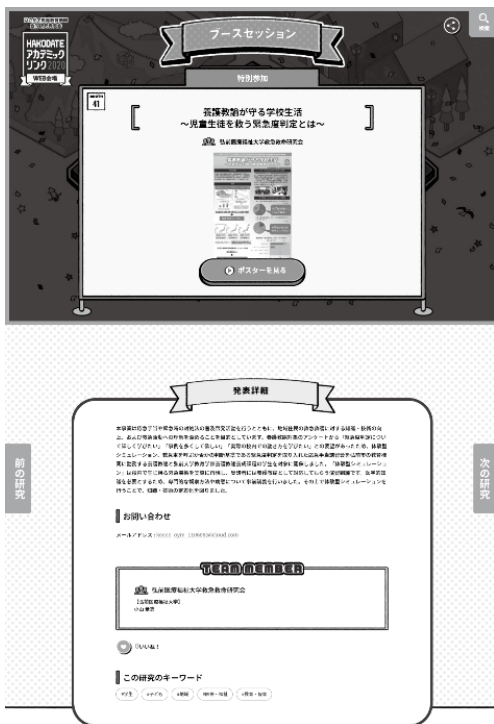
特設ページ全体：32、357回

・各ブース

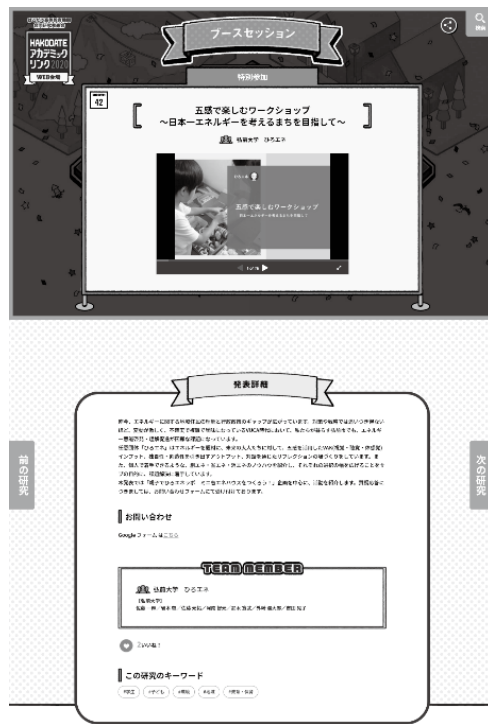
- ① 弘前医療福祉大学救急救命研究会：126回
- ② 弘前大学ひろエネ：170回
- ③ 東北女子大学小野研究室：146回
- ④ 東北女子大学福士研究室：112回
- ⑤ 東北女子大学ふれあい隊：114回

4. 会場の様子等

① 弘前医療福祉大学救急救命研究会



② 弘前大学ひろエネ



5. 参加による成果・効果（学生委員会からの報告）

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン上でのブース展示やステージ発表による開催となった。これまでの対面でのブース発表や交流が出来なくなった反面、オンライン開催となったことで、経費の関係で函館にいけなかった学生団体が、ブース発表や函館の学生団体の活動内容を知ることが出来たことは、今後の弘前市内の学生団体にとってプラスに働いたと感じている。

6. 今後の活動に向けて

これまでは本コンソーシアムの学生委員会「いしてまい」が主に本事業へ参加していたが、今年度は5団体もの弘前市内の学生団体が参加した。次年度の開催方法にもよるが、弘前市内の学生団体の活動を県外へさらに発信できるよう努めていきたい。

学生委員会「いしてまい」活動

1. 学生向け割引サービスを実施している飲食店調査及び SNS 発信事業

(1) 概要

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、弘前市内における学生の学習環境や課外活動は大きく制限を受け、アルバイトもままならず経済的に困っている学生も多い状況である。また、多くの飲食店が苦境に陥っている。

そこで、学生委員会「いしてまい」は、学生向け割引サービスを実施している飲食店情報を SNS に掲載することで、新入生を含め経済的に困っている学生に対して情報発信するとともに、弘前市内の地元飲食店の活性化に繋げることを目的に企画を立ち上げた。

(2) 方法

SNS 上で散見している学生向け割引サービスの情報をピックアップし、実際に店舗へ出向いて試食及び取材を行い SNS に掲載する。あわせて、一覧で閲覧できるような媒体の作成を目指し、継続的な情報発信につとめる。

(3) 調査時期

3月中旬頃～随時

(4) 新型コロナウイルス感染症対策

飲食を伴うため新型コロナウイルス感染症対策は十分に対策を講じる必要がある。具体的には以下の項目に注意し調査を行う。

- ・活動学生のスマートフォンに新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）をインストールする。
- ・日々の体温測定と行動履歴を記録し、活動時は毎回参加者名簿を作成する。
- ・手指消毒及びマスク着用、大声を発しないようにし、お互い距離を保ちつつ物品の共有は控える。
- ・徒歩や自転車移動を基本とし、公共交通機関利用時は混雑時間帯を避ける。

(5) 打ち合わせ風景



新型コロナウイルス感染症対策パンフレット

1. 内容

新型コロナウイルス感染症が拡大し緊急事態宣言が発出されている状況を受け、新型コロナウイルスについてや経過観察の重要性、3密回避、うがい・手洗いの徹底について、新年度が始まった4月にコンソーシアム構成機関の学生へリーフレットを配布した。

2. 作成したパンフレット



3. 事業成果

新型コロナウイルスに関する情報が各種メディアで取り上げられている状況だったが、コンパクトな冊子として持ち歩ける感染予防に係るパンフレットは十分に出回っていなかった。新年度が始まった直後に緊急事態宣言発出され、学生が不安に感じているなかでの配布となった。このパンフレットがこれからの学生生活の一助になればと考えている。

大学コンソーシアム学都ひろさき

令和 2 年 度 活 動 報 告 集

発 行 令和3年3月31日
編 集 大学コンソーシアム学都ひろさき
印 刷 やまと印刷株式会社
弘前市神田4丁目4-5
TEL 0172-34-4111

構成機関



弘前大学

〒036-8560 青森県弘前市文京町1
[TEL] 0172-36-2111 (代表)
[ホームページURL]
<https://www.hirosaki-u.ac.jp/>



弘前学院大学

〒036-8577 青森県弘前市稔町13-1
[TEL] 0172-34-5211 (代表)
[ホームページURL]
<http://www.hirogaku-u.ac.jp/>



東北女子大学

〒036-8530 青森県弘前市清原1-1-16
[TEL] 0172-33-2289 (代表)
[ホームページURL]
<http://www.tojo.ac.jp/>



東北女子短期大学

〒036-8503 青森県弘前市上瓦ヶ町25
[TEL] 0172-32-6151 (代表)
[ホームページURL]
<http://www.toutan.ac.jp/>



弘前医療福祉大学 弘前医療福祉大学短期大学部

〒036-8102 青森県弘前市小比内3-18-1
[TEL] 0172-27-1001 (代表)
[ホームページURL]
<https://www.hirosakiuhw.jp/>



放送大学 青森学習センター

〒036-8561 青森県弘前市文京町3
弘前大学コラボ弘大7階
[TEL] 0172-38-0500 (代表)
[ホームページURL]
<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/aomori/>

大学コンソーシアム学都ひろさき

〒036-8560 青森県弘前市文京町1 (弘前大学社会連携部社会連携課内)
[TEL] 0172-39-3160 [FAX] 0172-39-3919 [E-mail] conso@hirosaki-u.ac.jp
<http://www.consortium-hirosaki.jp/>